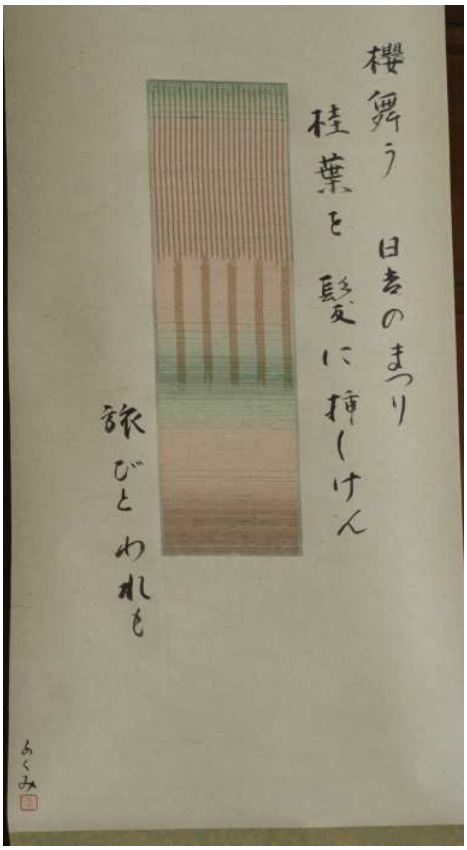
日吉大社自然観察倶楽部通信

No.2　　日吉大社で秋を染めます！　　Ｈ２２年１１月１４日

紅葉とたくさんの観光客の中、６名の参加者と共に草木染めを行いました。
まず、須原さんから草木染めの大先輩の作品を見せていただきました。滋賀県生まれの染織家であり、人間国宝でもある**志村ふくみ**さんの作品です。



須原さんの説明によると、以前、日吉大社の山王祭を見学した志村ふくみさんが、掛け軸を作り、贈ってくれたそうです。５月頃に東本宮の桂（かつら）を使って、染めた作品で、以下の様な和歌を添えています。

「桜舞う　日吉のまつり　桂葉を
髪に挿しけん　旅人われも」

志村ふくみ……（１９２４－）近江八幡生まれ
染織家・エッセイスト
着物等の草木染めの分野で活躍
１９８０年に紬織で人間国宝、
１９８８年に紫綬褒章
１９９３年に文化功労賞を受賞

さて、ここからは我々も草木染めに取り掛かります。事前準備として、木綿の生地に豆汁（ごじる）か牛乳を染み込ませ、乾かしておきます。これは、布を染めるために動物性タンパクが必要なためで、絹の生地なら必要ありません。
手順としては
① 染める葉っぱを集める　② 洗って、細かく刻んだものを１５分程煮出す
③ ビー玉やひもを使って布に模様を作る　④ 湯通しした布を１５分煮る
⑤ ミョウバン(媒染液；ばいせんえき)につける　⑥ 布をまた１５分煮る
⑦ 水洗いして干すという工程です。

① 染める葉っぱを集める工程では、3 班に分かれて境内の柿(マメガキ)、モミジ(イロハモミジ・オオモミジ)、桂を集めました。柿は以前の柿渋作り(9 月 26 日)で使ったものと同じ木・モミジや桂は境内に比較的多くあります。

次は、色を出すために、② 細かく刻んだ葉を煮出す工程です。鍋で葉っぱをグツグツ煮ていると、柿の鍋からいい匂いがしてきました。
色の濃さでは**柿＜モミジ＜桂**で、桂の鍋はしょう油色になっていました。

桂（カツラ）

→

桂を茹でた後の染料

③ 布に模様を作る工程を同時進行します。絞り染めという手法で、ひも等できつく縛ったところには色が染まりません。ビー玉を使うと円、割り箸を使うと直線の模様が出来ます。ひもでぐるぐる巻きになった物、ビー球がたくさん付いた物が出来上がりました。仕上がりはいったいどうなるでしょうか？

模様をつけた布を④ 湯通しして、またグツグツ鍋で煮る工程の後は、⑤ミョウバンに付ける工程です。ミョウバンとは媒染液の一つで、染めた布の色を定着させる効果があります。媒染液には、他に鉄や椿の灰などがあり、同じ植物で染めても、それぞれ染めた色が変わってきます。

さて、いよいよ仕上げです。⑥ 布をまた１５分煮る→⑦ 水洗いして干す工程ではそれぞれの模様が現われ、歓声が上がりました。同じ色、同じ模様は一つも無いということは、不思議な物だと感じます。

草木染めの後に、ふかした焼き芋をいただき、冷えた体を温めました。最後に皆さんの作品を展示します。

山本さん
辻田さん
中川さん

佐方さん
田中さん
樫原さん